

海外派遣研究助成事業による研究の成果

| | |
|--|--|
| 研究者氏名 | 服部 恵美  |
| 所属機関 | 国立がん研究センター研究所・希少がん研究分野 |
| ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 | International Cancer Proteogenome Consortium および Annual Meeting of Human Proteome Organization |
| 渡航期間 | 自 平成 30 年 9 月 28 日 至 平成 30 年 10 月 6 日 |
| ・研究内容 ・国際学会・会議内容 | プロテオゲノミクスの研究発表と情報収集 |
| <p>研究成果（要約：800 字）</p> <p>フロリダ州オーランドで開催された International Cancer Proteogenome Consortium (ICPC) および Annual Meeting of Human Proteome Organization (HUPO) に参加して参りました。</p> <p>ICPC は国際的ながんのプロテオゲノミクスのコンソーシアムであり、アメリカ・スウェーデン・台湾など 10 以上の国が参加しています。私は日本チームの解析担当者として参加しました。他の国のメンバーと知り合いになれたことも良かったです。一番の収穫は他のチームの解析方針について情報収集できたことです。今後日本チームの解析を進めるにあたっての参考にしたいと思います。</p> <p>HUPO はタンパク質研究の国際学会であり、私は「Mutated Nucleotide and Amino-acid sequence Generator (MuNAGE): novel proteogenomics software to generate sample-specific database」というタイトルでポスター発表を行いました。がんで特異的に発現する変異タンパク質はバイオマーカーや創薬標的候補として有望ですが、従来の解析では同定が難しいという問題点があります。私はタンパク質と同じサンプルのゲノムと RNA を用いてこの問題点を解決するソフトウェアを開発しました。</p> <p>同じ課題を持つ研究者や企業の方が話をしにきてくださり、プロテオゲノミクスの課題や解析ノウハウについてなど、具体的で実用的なディスカッションをすることができました。配布用に置いていたポスターの縮小版が 3 日間で 92 部捌け、本ソフトウェアへの期待の高さを感じました。学会を通して得た情報を活かしてソフトウェアをよりブラッシュアップし、世界中の方に使っていただけるようにしたいと思います。</p> | |